

第21回

さいたま市外国人による 日本語スピーチ大会

～さいたまに来て、見て、感じて～

CONTENTS

- 1 イベント
- 2 コラム
- 3 ご案内



出場者に加え、実行委員、当日ボランティアの皆さんとの記念撮影



さいたま観光国際協会名誉会長賞
チユ ティ ランさん(ベトナム)



さいたま市外国人による
日本語スピーチ大会実行委員長賞
シティ イスロイマーさん(インドネシア)

立春の令和5年2月4日(土)、第21回さいたま市外国人による日本語スピーチ大会が、浦和コミュニティセンターで開催されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で過去2年間は中止となっていたため、3年ぶりの開催となりました。今回は7カ国10人が出場し、「今こそ!会いたい 聞きたい 行ってみよう」をテーマに、久しぶりの熱弁を、間近に聞くことができました。コ

ロナ期間中の本人・家族の入国停止・延期などの苦労話、親戚、祖父、母親を亡くしても会えない、とてもつらい話の数々に、涙ぐむ人も多数見受けられました。コロナ禍で母国との距離がはなれても、いっそう家族の絆が深まったという発表は感動的でした。

表彰式でも審査員長から、「勇気もらった」「家族、身近な人の大切さを感じた」という高い評価もいただきました。コンサートプログラムでは、岩槻Jazz Amigosの演奏も最後に「明日があるさ」でしめていただき、久しぶりに元気の出るイベントでした。



さいたま観光国際協会会長賞
ベラエス マイテーノさん(ペルー)

2023年

着物着付け体験会

ウクライナからの
姉妹も綺麗に
着付けて
もらいました。

氷川の杜
文化館の庭にて



1月8日(日)大宮氷川神社、氷川の杜文化館で毎回人気のイベント「外国人着物着付け体験会」が3年ぶりに開かれました。今年は14カ国17名の参加者を迎えて、にぎやかな会となりました。中にはウクライナから避難している姉妹2名も参加しました。

着付けを終えた参加者に感想を尋ねると、「帯がきつい」「少し苦しい」と言いながらも「着物が着られてとても嬉しい」「色がきれい」「模様がすばらしい」「一度着てみたいとずっと思っていた」「今日、着られて本当に良かった」など、片言の日本語で感激の気持ちを伝えてくれました。

着付けを終えた参加者は2グループに分かれ、初詣に出かけました。担当者から参拝作法の説明を受け、手を合わせました。束の間でしたが、着物を着て日本文化に触れ、楽しそうに記念写真を撮り合う参加者は、皆笑顔いっぱいでした。

大好き! SAITAMA さいたま



ローレン・ヒューストンさん(アメリカ)

今回は、ローレン・ヒューストンさん(アメリカ出身)にお話を伺いました。

ローレンさんは、さいたま市の国際交流員としてさいたま市に在住。

幼いころ、田舎から都市(シアトル)に引っ越した時、街中に、中国語、日本語、ベトナム語などの外国語の案内板を多く見かけ、次のように感じたそうです。

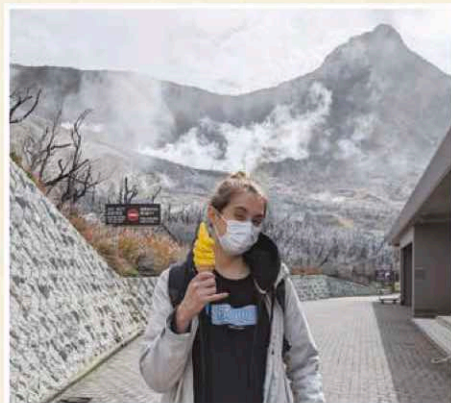
『自分はまだ、"井の中の蛙、大海を知らず"状態にある』

その時から、世界のことをもっと知りたくなり、特に日本の文化や歴史に興味を持ち、姫路市と姉妹都市関係にあるシアトル市の高校に進学(姫路市の姉妹高校に短期留学含む)し、大学卒業後、JETプログラム*による国際交流で来日し、まもなく3年目。

さいたま市は自然が豊かで、利便性が高いところが大好きです。また、生物学(植物)に興味がありますので、大宮公園、さくら草公園、見沼区の"さくら回廊"など好きな所がたくさんあります、と答える笑顔が印象的でした。



▲岩槻で木目込み人形の産業について取材中



▲箱根にて

一方、日本に来て困ったことは、アパートを借りようとする時、外国人ということで、なかなか貸してくれない状況がありました。その時は同僚が親切に交渉してくれましたので、助かりましたが…と不満げでした。

趣味はボディサーフィンで、下田の海岸は、シアトルに似ていてとてもエンジョイできたそうです。

今後は、さいたま市役所で、国際交流を続ける中で、日本の仏教や神道についても知識を深めたいと、流ちょうな日本語で話してくれました。

JETプログラム*

JETプログラムは、「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Program)の略称で、地方自治体が総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)の協力の下に実施しています。

Let's ボランティア

今回は番場 隆さんのお話です。
PPT(パワーポイント)を始めてみ
たい方を探しています。

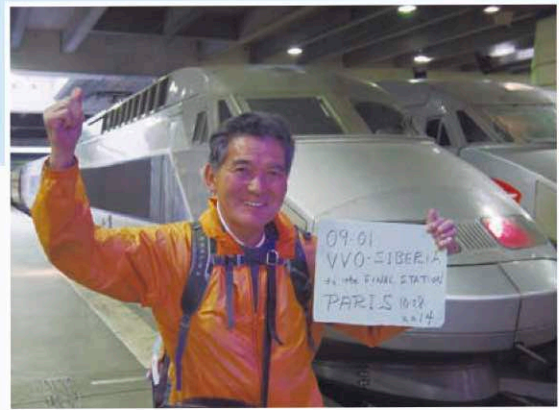
2014年6月、41年間勤務した会社卒業後、9月1日、入社前からの念願だったウラジオストク発モスクワまで6泊7日のシベリア横断鉄道の旅ができました。

そのあと世界最北端鉄道駅だったノルウェー・ナルヴィックから、ドイツ・オクトーバーフェストのミュンヘン、東欧から欧州最西端のポルトガル・ロカ岬経由パリ到着の、2か月間のシベリア・欧州鉄道の旅を終えました。

翌年、余生に地域貢献をと思い、IECでイベントボランティア登録。以来、インドアカワールドカップの通訳、国際友好・ふれあいフェア、はじめましての会、日本語国際センター交流会、日本語スピーチ大会などでお手伝



▲昨年10月の国際ふれあいフェア広報・アンケートチームと(本人前列中央)



▲最終駅パリ・モンパルナスで

いさせていただきます。

2019年からは、IEC NEWSの編集委員に参加し、忙しい日々喜びを感じています。

国際友好・ふれあいフェアでは、広報の事業委員で、ワードでアンケート用紙を作成し、エクセルで集計し、グラフも選んで、画像も追加してPPT(パワーポイント)で報告書を作成しています。現役時代に、時間をかけられなかったPPTは思った以上に簡単で、サウンド・効果などを入れ、報告会のときに紙芝居のように楽しんでいます。

是非ボランティアに登録して一緒に楽しみませんか? ご応募をお待ちしております。

2023年 日本語 ボランティア 養成講座 入門編



1月14日、21日、28日の3日間6回にわたる外国人への日本語支援ボランティアの基本を学ぶ講座です。

初回は1月14日から大宮門街ビル6階のレイボックホールで開講され48名の方が受講されました。



第1回は さいたま市観光国際課から最初に多文化共生社会への取り組みについて説明がありました。次に日本語教室に期待される役割、日本語教育推進の現状について説明されました。「地域の日本語教室は、ますます重要な存在になるので、研修を活かし、地域でぜひ活動をお願いします」と結ばれました。

そのあと事業委員の司会で3教室から5名の参加で(いわつき国際交流会日本語プラザ・にほんごのへや大宮コース・地球っくらぶ2000)パネルトークとなり、実際の活動のお話がありました。「ことばよりこころ」というコメントが印象的でした。

午後からの第2回は、外国人とのやりとりに必須の「やさしい日本語」を使つてのコミュニケーションスキルを身につける講座でした。

有料にもかかわらず、多数の参加者の熱意に感心させられました。

わくわくグローバルフェスタ2023 開催

～平和な世界を求めて～

「テレジンの子供たち」を語りつく



2月11日(土)さいたま市国際NGOネットワーク主催、ノンフィクション作家、野村路子さんによる講演会が開かれました。野村さんは1989年ブラハを旅された時、テレジン収容所でユダヤ人の子供たちが描いた絵と出会い、以後「テレジン収容所の若い画家たち展」と題して精力的に子供たちの絵を紹介する活動をされています。

テレジン収容所には15000人の子供たちがいましたが、生き残れたのはわずか100人。多くの子供たちがアウシュヴィッツに送られて亡くなりました。テレジンはブラハから北へ60キロほど離れた小さな街で、東へ直線距離にして近い所にアウシュヴィッツがあり、「アウシュヴィッツは地獄、テレジンはその待合室」と言われたこともありました。

テレジン収容所の生活は過酷でした。粗末で不潔な住居、わずかな量の食事。子供たちは労働力として駆り出され、男子は荷役、女子は畑仕事を担わされていました。わずか10～15才の子供です。そのような状況の中、何とか子供たちに子どもらしい楽しさを味わってほしいと一人の女性が絵を描く機会を作ってくれました。その女性はフリードル・ディッカー・ブランデイズさんというオーストリア人の画家で、彼女もまたテレジン収容所に送られていた人でした。

過酷な毎日の中、自分の世界に浸り、嘆きや悲しみだけでなく、願いも込めてクレヨンで走る時間は、子供たちにとって、どれほど「ほっと」できる時間だったことでしょう。

講演の最後に「子供たちの笑顔が消えた時、大人が力を差し出すことで、子供たちの笑顔を取り戻せる」と結ばれました。野村さんは私たちに「知る勇気をもって、伝える努力をしていきましょう」と、力強いメッセージも届けてくれました。



▲「野村路子(みちこ)さん」



▲「蝶々だったら、塀を乗り越えられる?」



▲「暗い収容所の絵」

お知らせ

国際友好フェア2023

日時：2023年5月3日(水・祝)
4日(木・祝)

9:00～16:00(4日は15:00まで)

場所：市民の森・見沼グリーンセンター
(JR土呂駅から徒歩8分)

市民国際交流活動団体による活動内容紹介、民族料理・各国物産品の紹介・展示・販売、ステージイベント、海外姉妹・友好都市の紹介など

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、行事内容に変更や中止となる場合があります。



多言語生活相談

国際交流センターでは、国際交流員や市民ボランティアスタッフによる外国人のための簡易生活相談を行っています。対応可能言語は、英語、中国語、韓国・朝鮮語です。*各言語の相談時間は以下の通りです。

■中国語	
担当者 (Ms.) 印 志紅(イン シコウ) <中国・上海出身>	
日 時 毎週火曜日 9:00～12:00/13:00～15:00(受付は14:00まで) ※祝日休	
■英語	
担当者 (Mr.) LEANDER S. HUGHES (リアンダー ヒュース) <アメリカ・ミネソタ州出身>	
日 時 毎週水曜日 9:00～12:30/13:00～14:30(受付は14:00まで) ※祝日休	
■韓国・朝鮮語	
担当者 (Ms.) 林 景禧(リム キョンヒ) <韓国・昌原出身>	
日 時 毎週木曜日 9:00～12:00/13:00～15:00(受付は14:00まで) ※祝日休	
*上記の曜日、時間帯以外はすべて日本語での対応となります。	
■簡易生活相談(基本的には日本語での対応となります)	
担当者 市民ボランティア <日替わりで対応>	
日 時 月・火・水曜日 10:00～12:00(受付は11:30まで) 木曜日 10:00～12:00/12:00～15:00(受付は14:30まで) ※祝日休	

詳細は各窓口にお問い合わせください。

【生活相談窓口】TEL 048-887-1506
FAX 048-887-1505



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルコ上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL <https://www.stib.jp/kokusai>

